

第1次大戦後、国家間紛争を国際法に照らして平和的に解決するため、国際連盟の外部機関として「常設国際司法裁判所(PCIJ)」が設立された。1931年、アジア人として初めての所長に就任したのが、外交官で国際法学者の安達峰一郎(1869~1934年)だ。生誕150年にあたる今年、理もれがちな存在に再評価の機運が高まっている。(文化部 小林佑基)

戦前の日本を代表する国際人なのに、著名とは言いがたい安達。その理由について柳原正治・放送大学教授は、在外公館勤務が30年弱に及んだことを挙げる。さらに「PCIJの判事の任期中に病没し、著作がない

## 生誕150年 外交官・安達峰一郎



安達峰一郎(山辺町教育委員会提供)



1931年のオランダの新聞に掲載された挿絵。よろい姿の武者(軍国主義者)を制している侍に、安達をならせている安達峰一郎(記念財団提供)

ことが大きい」と嘆く。柳原教授は10年以上前、日中韓の専門家が集まるシンポジウムをきっかけに安達への関心を深めた。その後、山形大に安達の研究プロジェクトが発足する際、請われて国際法グループをまとめることに。10人の専門家が戦間期の国際法理論の展開や国際政治などを研究、2017年に論文集『安達峰一郎——日本の外交官から世界の裁判官へ』(東京大学出版会)をまとめた。安達は筆まめで、6000通以上の書簡が残されているが、あまり知られていなかった。このため柳原教

授は、論文集の刊行後に著作選の編集を始め、今年5月に『世界万国の平和を期して』(同出版会)を刊行。論文や外交官時代の報告書、家族への書簡など、約100編を厳選して収録した。6月には生誕150年記念のシンポジウムも開かれ、柳原教授が基調講演。秋葉剛男・外務次官は安達について、「国際秩序の形成に深く関わった真の国際人だった」とたたえた。また、著作選で解題を寄せた三牧聖子・高崎経済大准教授らがパネル討論をした。柳原教授は、安達が国際

潮流に敏感に反応し、国際法を持つ意義を捉え直しながら平和を追求したことを評価する。外交官になった当初、安達は国際法を、日本を「一等国」に押し上げるための道具と考えていたという。それが第1次大戦後は、世界に平和をもたらすものと考えてようになっていった。だから、1928年にパリで締結された不戦条約に対し、日本の学者のほとんどが否定的に見る中で「エボリューション(進化)」だと喜んだ。

こうした安達に立ちほだかったのは、ほかならぬ日本だった。PCIJ所長に就任して8か月後の31年9月、満州事変が勃発。PCIJの裁判官として母国政府からの独立や公平を説いていた安達は、日本の行動に関与するわけにはいかなかった。それでも、知人の斎藤実首相に「私信」を送るなどして解決を願った。結局、解決はかなわず、安達は所長の任期を終えた34年、失意のまま病没する。柳原教授は「安達のように苦しんだ人がかつての日本にはいた。彼の苦悩や葛藤に思いを致してほしい」と訴えている。

# 国際法が築く平和 信念に

【略歴】山形県山辺町生まれ。東京帝大卒業後、外交官となる。1905年の日露講和会議(ポーツマス会議)で、小村寿太郎全権の随員として活躍したほか、メキシコ公使、ベルギー大使などを歴任。国際法学者としても、東京高等商業学校(現・一橋大)で外交史を講義するなどした。

国際連盟やPCIJの発足に大きく関与し、連盟では第2回総会(1921年)と第10回総会(29年)の日本代表。30年、PCIJの判事に立候補し、最高点で当選。翌年、所長に選出された。34年に客死すると、オランダ王国とPCIJの合同葬が行われた。

PCIJの後身にあたる国際司法裁判所(ICJ)で、2003年から裁判官を務めた小和田恒氏一写真は、戦前の国際社会に貢献した著名な日本人として、安達は教育者・新渡戸稲造と双璧をなすと指摘する。「バイラテラル(2国間関係)の外交が重視される中、マルチラテラル(多国間関係)な国際外交の場で日本代表として活躍した」と、安達の国際協調的な活動を高く評価する。

小和田氏は、安達が再注目されるきっかけの一つを作った。ICJ判事に就任した際、所内に歴代所長の肖像画が並ぶ中、安達のものがないことに気づき、寄贈するため奔走。その後も山形大に安達研究を勧めた。

国際司法の実務を熟知する小和田氏がさらに着目する点が、立場や背景の違う判事たちの意見を所長としてまとめた手腕だ。所長として直接判決に関わったのは、東部グリーンランドの法的地位など二つだけだったが、非白人への蔑視が激しい当時、並大抵の苦勞ではなかったと考える。「一人の国際法学者、国際人として、みなが力量を認めていたのだろう」

日本人は今も昔も、内と外を峻別しがちだと、小和田さんは憂慮する。折しも世界は自国第一の風潮が広まり、1930年代に似てきたとみる。「こうした状況の中で安達に関心が集まるのは、非常に意味のあることだ」と話した。



曾我謙悟・京都大教授

日本の地方政府は、都道府県と市町村の二つで構成されている。言い換えると、広域地方政府と基礎的の地方政府から成り立っている。これを二層制の地方政府という。全国がくまなく二層になっており、都道府県、市

## 文化

2

比較の中の日本

## 行政サービスの種類突出

0	字	で	わ	か	る
地方行政					

もあるわけではない。住民による市町村創設の手続きを経て、市町村が誕生する。逆に言えば、市町村が不在で、郡が提供する行政サービスだけを受ける地域も多い。

日本	フランス	アメリカ
道府県	14レジオン(州)	50州
270	478.5	617.5
なし	98デパルتمان(県)	3031カウンティ(郡)
	68.4	10
市区町	3万5885コミューン	9万56ミニシパリティ等
7.4	0.18	0.34

「各国の地方政府のホームページで公開」から作成

住民にとって最も身近な存在である市町村の特長を生かすには、境界線を変えない方がよい。長年にわたり地域に根ざしているからこそ、「自分の町」と思える。逆に、広域地方政府は人工物としての性格が強く、作り替えやすい。

フランスがその典型例だ。基

の三層全といは、を地由来リス政府形でが実